

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600335		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム いすの木 1階		
所在地	苫小牧市住吉町2丁目8-9		
自己評価作成日	平成29年11月20日	評価結果市町村受理日	平成30年2月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0193600335-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームいすの木はほほ市の中心部に位置しているが周りには公園がたくさんあり自然環境にも恵まれている、日常的に天気の良い日には季節を感じながら散歩に出かけられる様な所である、また、車で30分程で行ける観光地、支笏湖やポロト湖、ノーザンホースパーク等もあり毎年、バスを借り切って観光地に出かけチップ井やアイヌの伝統料理等のその観光地でしか食べられない食事を楽しんでいる、その時は入居者の家族様達やボランティアさん達にも参加していただき、一緒に楽しんでいただいている。敬老会も施設でやるのではなく、ホテルを借りていつもと違った雰囲気の中で家族や友人たちと談笑しながらの食事会、このような家族参加型の行事や外出、外食等、施設の外で色々な人達と関わりを持てるように支援している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホームいすの木」は、幹線道路に面した住宅地にある2ユニットの事業所である。周囲には公園が多く、スーパーや各商店もあり、生活の利便性に恵まれている。利用者は近隣の公園まで散歩したり、個別の買い物を楽しんでいる。向かい側に苫小牧市立病院があり、知り合いの方が受診の際に立ち寄ることもある。地域とは町内会の各行事に利用者も参加して住民と交流している。事業所の敬老会、節分、クリスマス会には町内会役員や家族の参加も得て交流の機会を継続して行っている。ボランティアグループ協会などの紹介で、傾聴や遊びごとのボランティアが隔週に来訪して利用者と顔馴染みになっている。地域に高齢者世帯が多く、管理者は住民の相談を受けたり、認知症への対応で小学校の出前授業に協力している。運営推進会議と同日に住民と家族の参加で避難訓練を行い災害に備えている。法人本部と共に管理者は職員の育成に取り組み、法人研修の他、内外の研修や勉強会、カンファレンスなどで学びを深められるよう計画的に行っている。今年は法人研修の一貫で法務局から講師を招き事業所で人権擁護に関する研修を行っている。モニタリングで本人の言葉から個別の意向を職員間で話し合い、意向に沿って外出の支援や食事の工夫などをして日々楽しめるように対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所」の理念があり、理念を意識して毎日の支援が出来る様に職員が毎朝理念を確認してから業務についている	理念の中に、地域住民と交流を深めるといった文言があり、住民との交流を積極的に行っている。毎朝の申し送り時に理念を唱和し、介護計画の見直し時にも利用者の思いに沿っているか、理念に触れることもある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事への参加、定期的なボランティアの訪問、施設行事への町内会の人達の参加のお願い、町内会活動への協力等、地域の一員として交流している	町内会のお祭りに参加する一方、事業所の行事に役員を招待し職員の余興を披露するなど双方間の交流を継続して行っている。近くの駐車場に出かけて、子供によるブラスバンドの演奏を聴いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会全体でも、独居の認知症高齢者が増えており、地域の人達が認知症の人達を理解していただける様、施設で勉強会を開催したり、施設行事等に地域の人達の参加をお願いしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催しており、入居者家族、市の担当者、地域包括支援センターの人達の出席をいただき、意見やアドバイスをサービスに活かすようにしている	2か月毎の会議開催で年間行事や外部評価結果を報告し、水害や地震時の避難場所について意見を交わしている。会議では振り込み詐欺や地域の高齢者事情の情報も得ている。家族の参加率は高く、開催日の工夫で7~8名ほどの参加もある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市担当者が出席していただき、地域支援事業等の情報や市の情勢やアドバイスをいただいている	介護認定更新や生活保護書類手続きの際に市役所に出かけて確認している。認知症サポーター養成講座を受託し、管理者は小学校の出前授業に協力したり、事業所内で家族や近所の人の参加を得て認知症の勉強会を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については全職員が社内外で開催されている研修に参加し、どのような事が身体拘束にあたるのかを理解し身体拘束しないケアに取り組んでいる	法人研修や外部研修で身体拘束の弊害を学び、カンファレンスで内容を確認し拘束をしないケアを共有している。小冊子を全員に渡し、身体拘束禁止行為についても理解も深めている。利用者が落ち着かない時は状態に合わせて対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても社内外の研修で何度も取り上げられており、虐待につながる色々な状況を理解し虐待防止に努めている		

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用している入居者がいる事もあり、あらためて、成年後見人制度がどのような制度か職員全員が理解する様に務めている、また、日常生活自立支援事業についても市の介護福祉課や市の広報の福祉欄等から学んでいる			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される際には本人と家族には十分な説明をして納得していただいた上で契約をしている			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの訴えは毎日の生活の中で聞いており、家族からの意見や要望は面会時や運営推進会議等で聞き入れる様に努力している	家族の来訪時にケアの方法や介護計画の意向を確認している。家族の意見や想いも経過記録に記載して共有できるように工夫している。年4回家族参加の行事を企画し、意見を聞く機会もある。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は毎日の業務の中や月に1回のカンファレンス会議等で聞き、取り入れる様にしている	カンファレンスで介護計画の見直しや研修報告を行い意見を交換している。職員間で働きやすいように業務の流れを話し合い、備品などの要望は本部に上げて購入している。新人職員とは3か月期間の中で指導や目標について話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与、労働時間は会社規定があるが、勤務形態やシフトの変更、希望の休日等は出来るだけ聞き入れている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が出来るだけ研修等に参加出来る様に勤務調整はもとより、外部研修の費用の助成があり、研修に参加しやすいようにし、職員のスキルアップに努めている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、管理者・ケアマネ研修、また、他事業所訪問等で同業者間の交流を通じてサービスの向上に努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人との面接でどのような生活を望んでいるのか今までの生活状況の把握した上で話をよく聞き出来るだけ本人の望む生活を実現出来る様に努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族の面談時に家族の要望、本人と家族の関係なども考慮し家族の要望が本人の要望と相反するものでない限りは聞き入れ、家族の協力を得ながら支援をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からの聞き取りから得た情報をもとに生活歴、以前利用していた施設、かかりつけ医療機関からの情報等から本人が必要としている支援を見極めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員は家族と言う意識で、出来る事は手伝ってもらいながら入居者と共に毎日を生活している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に3回は家族参加型の施設行事を開催しておりその時は準備の段階から、また、当日も家族の協力をいただきながら行っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の面会は時間に関係なくいつでも受け入れており、入居前に行かれていた理髪店や美容室にも本人の希望があればいつでも行けるように支援している	趣味関係の友人や近所に住んでいた知人が来訪し、毎月訪れる方もいる。家族の支援で外出や外泊時に買い物、外食を楽しんでいる。ラーメンが好きだった利用者の会話をきっかけに、他の利用者も一緒にラーメンを食べ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が一緒に過ごせる場所が施設内に数ヶ所あり話をされたり、テレビを観て過ごされている、一人で居る人には声掛けし、その場所に誘導、他入居者とコミュニケーションを図れる様に支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された入居者家族の訪問、相談は多く関わりが続いており、自分の庭で採れた花や野菜を持って来て下さったり、ゴミ袋に使う為のレジ袋、拭き布に使う古着等も退去された後も持って来て下さっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を最優先に支援している、言葉で意思を伝えられない入居者にはその動きや表情等から出来るだけ本人の意向を汲む努力をしている	会話などで意向を把握している。今後アセスメント表の備考欄に暮らしや趣味嗜好などを追加し、モニタリング表に記載している本人の言葉や意向を介護計画書(1)にも反映させたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りでその人の生活歴、馴染みの物やこれからの生活に対する希望等を聞きこれまでの暮らし方の把握に努めて、これからの生活につなげている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体的な状態はバイタル測定や食事摂取量等から把握し精神面ではその日の言動から把握するようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を大事にしつつ、家族の希望を聞き入れ、毎日の申し送り、ケアカンファレンスで職員間の意見交換をし、日々の介護記録から入居者にとってより良い介護計画を作成するように努めている	モニタリング表を基に、カンファレンスで課題ごとに評価を行い3か月毎に介護計画を作成している。介護計画見直しの一連が分かるように、書類を3か月ごとにまとめて綴ることを考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、入居者一人一人の介護記録を記載しており、業務日誌や連絡ノートで職員間で共有し介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常のサービスの他にも入居者の希望があれば個別に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内だけの生活にならないように地域の人達との交流の機会を設け、外出等により施設外の人達と関わりが持てるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医とは入居者の身体的状態の情報提供等で常に連携を図り適切な医療を受けられる様に支援している	家族の対応でかかりつけ医を継続し、受診時に健康情報を渡している。家族の事情で事業所が対応する事もある。約半数の利用者は訪問診療を受けている。受診内容を時系列に記載しているが、日付で往診ファイルにも迎れるように考えている。	

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回、連携病院から看護師の訪問があり、入居者の健康チェック、身体的な相談をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院時には病院に入院する時までの状態を情報提供し、退院時にはこれからのケアについて指示を受けている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した時や終末期にはどのようなケアを望んでいるか本人、家族と話し合いを持っている	重度化した対応指針に看取りの考えを明記し、常時の医療行為がある場合は対応が難しいことも説明している。重度化で状態の変化がある時は、関係者で方針を確認し、対応が難しい場合は今後の事も含めて医療機関や施設を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救急救命講習を受けており、急変時や事故が起こった時には迅速に対応出来る様になっている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、色々な災害を想定して避難訓練を実施しており、家族や地域住民にも避難訓練に参加していただき協力をお願いしている	運営推進会議と同日に夜間を想定した避難訓練を行い、委員は誘導後の見守りで参加している。自然災害では避難場所を話し合っているが訓練は行っていない。新人職員も含めて救急救命訓練の受講を検討している。	自然防災マニュアルに沿って勉強会を行い、地震等を想定して事業所内の危険場所の確認や、各ケア面での対応を職員間で話し合うことを期待したい。

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者にはそれぞれ個室がありプライバシーを守ることが出来るが他入居者と一緒に過ごされている時には職員は声掛けに注意をしている、特に、排泄の声掛け時には他入居者にわからない様に声掛けしている	法人による新人研修や勤務年数等に応じた研修の際に接遇について学んでいる。言葉かけで気になる場合、管理者が時間をおかず注意している。個人記録類は事務所で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の希望を聞いており、職員の意見を押し付ける事なく自己決定出来る様な働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の状態やペースに合わせ、食事の時間や入浴時間等は柔軟に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣や整容は出来るだけ本人の決定を大事にしているが自分で決められない時や季節が合わない時には声掛けしている		

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューは決まっているが入居者一人一人の好みやその日の状態に合わせて調理方法や食材を変えている、下ごしらえは出来る入居者に手伝っていただいている	法人の献立であるが、適宜、利用者の好みに合わせて変更している。催し物での食事では、家族と一緒に楽しむ機会がある。調理の下拵えでは、とうきびの皮むきをするなど、季節の食材に触れてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日記録しており、必要摂取量が摂れる様に体調や好みに合わせて工夫をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝前、毎食後に必ず口腔ケアをしている、自力で出来ない入居者には職員が介助で行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを職員全員が把握しており、訴えない入居者には声掛けしトイレ誘導している。紙オムツやリハビリパンツにパット使用の入居者にはまめにパット交換し清潔保持に努めている	全員の排泄チェックを行っている。ほとんどの利用者が夜間帯を含めトイレでの排泄が可能であるが、必要な方は居室内のベッド上で支援している。トイレのお誘いは本人に配慮した言葉がけにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便回数、時間、形状等は記録しており入居者の状態に合わせ長期間排便が見られない時は医師より処方の下剤を与薬している、		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まってはいるが、入居者の希望やその時の体調によって、回数や時間は柔軟に対応している	入浴時間は午後からの設定で、日曜日を除き毎日、入浴している利用者があるなど希望に応じている。浴槽へは2方向から入ることができる。シャワーチェアや補助具を使用し、安心して入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間、就寝時間は入居者本人にまかせており、快適に睡眠出来る様に室温や照明を入居者の希望や体調に合わせて調節している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の薬の効能や副作用については職員全員が把握しており、食後、起床時、就寝前など決められた時間に与薬し、内服の確認をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除、洗濯物の整理、畑作り、布巾雑巾縫い等入居者の得意とする事は出来るだけやっていたり、毎朝の掃除は自分の役割と言われ、声掛けしなくても自らやられている		

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望があれば買い物に付き添い、商業施設のフードコートや近くのラーメン屋に外食に出かけ、周辺観光地にバスを借り切り出かけている。その時は家族も一緒に行っていたい	散歩は車の通りが少ない近隣の公園に出かけている。買い物は大型スーパーをはじめ、衣料品店、電気店などへ個別に対応している。町内会の夏祭りやセレモニーホールでの敬老会、青空コンサート、アイヌ民族博物館など、地域や家族の協力を得る外出も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に難しい入居者がほとんどだが自分お金を持たれている入居者もあり、買い物に行った時には自分で清算出来る様に支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人にはいつでも電話を出来る様にしており、手紙も自ら投函出来る様に支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔を保ち、照明、室温等も調節して居心地の良い空間にしている、また、玄関、廊下、談話室の壁には季節ごとに入居者と一緒に季節の飾り付けをして季節を感じていただいている	庭に鳥の餌台を設置し、ガラス張りの玄関から集まる鳥が見られるようにしている。ダイニングルームの他に談話室(ソファコーナー)、和室があり、利用者が過ごす事のできる空間が多い。中庭出入口付近に靴置き場を設けて、自由に花壇や畑へ出られるなどの配慮がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも一人でくつろげるソファがあったり、食堂、談話室、和室があるが、入居者がそれぞれ気の合ったもの同士でお話出来る場所になっている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にはなるべく使い慣れた家具や身の回りの品を持って来ていただいております、環境が大きく変わった事による混乱を少しでも軽減していただいている	利用者の好みの家具や調度品が置かれ、テレビ、冷蔵庫などの電化製品も持ち込まれている。飾り付けや鉢植え、趣味のものなど、本人の生活スタイルに応じた設えをサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室には名札や写真等をドアの横に張り付けて自分の部屋だとわかるようにしている、トイレも一目でわかる様に工夫している		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600335		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム いすの木 2階		
所在地	苫小牧市住吉町2丁目8-9		
自己評価作成日	平成29年12月2日	評価結果市町村受理日	平成30年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者の今までの生活を大切にし意思、人格を尊重した介護をめざしています 日々、入居者も職員も笑顔の絶えない生活を心がけています 入居者様にとって、家庭的で過ごしやすい環境で有る為に地域の方共交流しています グループホームが安心、安全で過ごしやす環境に心がけています</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0193600335-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年12月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所にはり、皆で毎日意識するようにしている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	キャラバンメートの活動や、運営推進会議に町内会の出席、町内の方の相談などもおこなっている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年一回認知症の勉強会を開いている、小学生を中心に学校で認知症の勉強会をしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議などで報告する。入居時契約書の裏に付けて、御家族からのご意見を頂いております		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席頂いたり、空き情報などを市に送ったりしています		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束等はないが、徘徊のある方にもしないようなケアを心がけている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり事業所で勉強会などを行っている		

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社で、法務局の方の研修をしたり、現在利用している方の弁護士、行政書士と話をし活用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、読み上げ補足の説明をし、家族の質問要望を聞いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、玄関に設置したご意見箱などをとうより良い運営につなげて行けるように努力しています		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ミーティングなどで意見を聞いたり、日常も色々な意見を聞くようにしています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	国の基準に合わせ、職場の改善をしています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	金銭的な制約もありますが、研修、資格習得に向け援助したり、会社で、職員向けの研修を実施させています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の研修に出たり、相互評価をやりながら他のGHとの勉強会、交流を図っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、本人とも面談し本人の困っている事、GHに望む事などを聞き安心できるような関係を作っています			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込の相談の時から家族の要望などを聞いている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人、御家族が必要とする支援について話し合い、ケアプランを作成し、説明し同意を得ている			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活することを基本に本人ペースで個々に合わせた支援			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時、日常生活の様子を面会時伝えており、家族の面会の少ない方には電話、手紙などで伝えている、又、家族参加の行事も設けている			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親せき、知人の面会なども多くあり自宅自宅に週末帰ったりしている			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で過ごす時間が多く、談話されたり、一緒に家事のお手伝いをしたりしている			

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去しても行事の手伝いや、様々な相談に訪れるそのたびに対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向を聞き取ったり気持ちを推測したりし職員で話あっている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係機関からの情報収集、入居前の本人との面談によりアセスメントし、入居後は談話、日常生活の場面で話を聞いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の行動、言動を毎日記録し職員全員で把握している、朝は全体で申し送りをしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望をふまえて、カンファレンス会議などで職員みんなで検討しケアプランに活かしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントシートや連絡ノートの記録、申し送りでの職員からの情報の共有をし、カンファレンス会議などでケアプランについて話合う		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活全般に支援しており、本人、家族の状況に応じ協力している。必要に応じて在宅診療も取り入れている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域やボランティアの協力をえて、様々な行事に参加したり、入居者の思いを聞くために傾聴ボランティア等を活用している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各自、かかりつけ医がおられ、家族、職員が付き添いで受診している又、歯科、皮膚科は往診、内科は希望により在宅診療をうけている。定期的に訪問看護をうけている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期の訪問看護には個々の情報を伝える他電話などでも情報を伝えている。往診医療に関しては往診の前に書面で状況を知らせている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、介護情報提供書を病院に提出しており、医者より状況説明がある時は立ち合わせて頂いている。退院時も病院のケースワーカー医師看護師から情報を頂いたり話し合ったりしている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関しては契約時書類を頂いており、その時の状況に応じて、話し合いをしている			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はしていないが、事故の初期対応などはマニュアルに従い対応するようにしている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員や町内会の方、御家族の方、包括の職員などにも参加頂いて、年2回避難訓練を実施している			

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の性格などを把握し、失礼のない声掛けや接し方に努めている。又研修も行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が遠慮や我慢をしないように、何でも話せる雰囲気づくりや声掛け、傾聴を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで生活されており、外出や買い物、やりたいことが出来る様に職員の配置を考えなるべく支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて筆筒の中を入れ替えたり、毎日同服装にならないように職員が事務室に預かったり身だしなみに気を付けている		

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	肉の嫌いな方には他の物を提供したり、なるべく自力で食べられるように工夫している。食事の準備、後かたづけなどは職員と協力して行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個々に合わせており、毎食、食事量、水分量を記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けしているが、就寝前には必ず職員が確認している、義歯は、夜間預かり、洗浄剤につけている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々排泄ペースに合わせ、プライドが傷つかないように声掛けしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録をしており、便秘薬の服薬、水分や乳製品の提供、運動などで予防している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回、利用者の状況、希望に応じて支援しているが、利用者の希望があれば入浴できる		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間の決まりはなく、個々のペースに合わせて過ごして頂く		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が携わり、大体の病気の関わる薬は把握している。薬の内容が変わったりときには、連絡ノートで知らせる様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた家事のお手伝いをさせていただいたり、外に散歩や買い物に行ったり、歌や、ゲームを楽しんだりして気分転換をしている		

ふれあいの里 グループホームいすの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望、天候によって散歩を楽しんだり、家族やボランティアの協力を得てドライブ、食事会などを実施している			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方は所持されており、買い物の時などご自分で支払ってもらう			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、常に対応している			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに季節感のある飾りをしたり、共有の空間の温度などにも常に気を配っている			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、談話室、廊下などに椅子を置き個々のペースで過ごせる空間や、居室で気のあった方と話たりカウンター越しに職員と話が出来る様にしている			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人が使い慣れた物、好みの物を持ち込んでいただき、職員、家族、本人が相談して配置している			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々ご本人の能力に合わせた活動をし、危険のない環境を整えている			

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホーム いすの木

作成日：平成 30年 2月 12日

市町村受理日：平成 30年 2月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年に2回、避難訓練を実施しているが、いつも施設内火災を想定して行っており、地震や水害等の自然災害を想定した避難訓練は行っていない	自然災害を想定した避難訓練を実施する	自然災害防災マニュアルに沿った勉強会を開催し災害時の住吉地区の避難場所の確認、各入居者避難時の誘導方法、職員間の連絡網、地域住民の協力体制等を全職員が周知徹底する	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。